

月刊

河井克行



日本を、
建て直す。

米国共和党の重鎮で軍事委員会に大きな影響力を持つ
ジョシ・マケイン上院議員と再会（6月11日）

平成 26 年

7
月号

- 第7次ワシントン DC 出張
- 鳩山邦夫元総務大臣を中心とする「きさらぎ会」に注目が
- 「日米同盟コーカス」を結成
- 自民、「ニュー法務族」が台頭
- 「宇宙外交政策研究会」が始動
- 第17次沖縄県出張

第7次ワシントン DC 出張

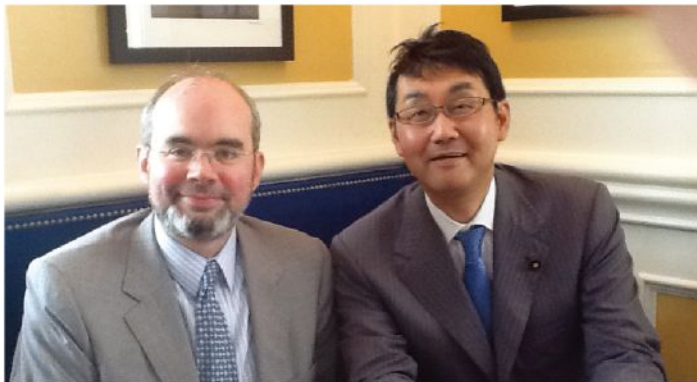
～集団的自衛権容認に党派を超えた強い支持
中国の拡張主義には危機感が募る～

河井克行代議士は、6月9日～11日、昨年から数えて7回目のワシントン DC 出張を行いました。三回目の会談となるメデイロス NSC アジア上級部長に河井克行代議士から「①集団的自衛権のあり方はできる限り幅広く、②集団的自衛権の容認はいますぐに行われることが望ましい、③集団的自衛権の行使により、日米の作戦行動が一体化し、切れ目なく、より堅固に地域の安全を守られる」と語ったところ、「挙げられた三点は、いずれも当を得たものである。年末までの日米防衛協力指針（ガイドライン）改定実現を促進するべく、集団的自衛権の行使容認に向けて進められている安倍政権の取り組みを完全に支持する」と答えがありました。他の会談相手からは、イージス艦、F35 戦闘機、早期警戒機等の統合性が重要になることや、前週に国防総省から議会に提出された『中国の軍事・安全保障の課題』に記された中国の脅威について多くの言及がありました。

「集団的自衛権の行使容認は、今後十年間の日米同盟の枠組みを決める重要なものなので、永田町の論理によってではなく、戦略的な観点からの決定がなされることを希望する」（マイケル・グリーン元 NSC アジア上級部長）認識も示されました。



メデイロス国家安全保障会議（NSC）
アジア上級部長との会談を終えて



グリーン NSC 日本部長と昼食



ウィッカー上院軍事委航空陸上小委員長（共和）



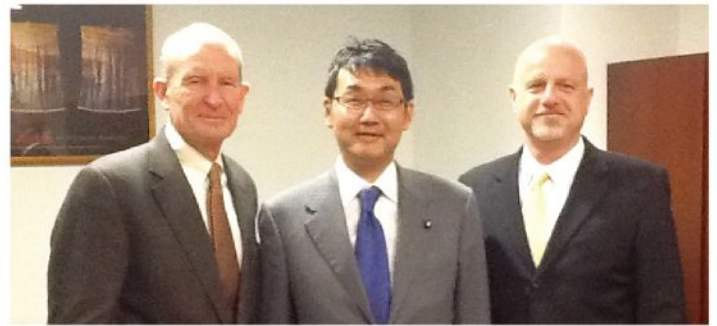
エンゲル下院外交委員会筆頭委員（民主）



ローレス元国防次官補、パターソン元大統領特別補佐官兼
NSC アジア上級部長、メア元国務省日本部長



安倍総理が講演したハドソン研究所上級副所長の
リビー元副大統領首席補佐官と再会



笹川平和財団所長のブレア元国家情報長官（左）



グリーン元 NSC アジア上級部長の主宰により
戦略国際問題研究所（CSIS）非公開円卓会議で講演



議会専門誌『CQ』防衛・外交上級論説委員のブローダー氏

「日米同盟コース」を結成

～共通の価値観を基に外交・安全保障を進める有志の会～

6月27日（金）朝、自民党から左藤章・党国防部会長と城内実・党外交部会長、民主党から松本剛明・元外務大臣と長島昭久・元内閣総理大臣補佐官、日本維新の会から松野頼久・党国会議員団幹事長と小熊慎司・衆議院外務委員会理事、みんなの党から水野賢一・党幹事長と中西健治・党政策調査会長、そして結成を呼びかけた河井克行代議士が集まり、超党派で行動する「日米同盟コース」が誕生しました。初回は、葛西敬之・JR東海代表取締役名誉会長が日米同盟の重要性につき、歴史的考察と今日的意義を踏まえた深い洞察を披歴されました。

民主党と共和党が党派を超えて対日外交を推進していることをワシントンDCで目の当たりにした河井克行代議士は、集团的自衛権、TPP、エネルギーなどで共通の考えを抱く議員が党派を超えて行動する道を模索してきました。外交・安全保障政策は、与野党の垣根を越えて共通の価値観や理念に則って進められるべきだという河井克行代議士の訴えに快く応じたのが、コースの議員たちです。

米国に赴き議会・政府・シンクタンク有識者・メディアと意見交換を行い、米国から関係者が来日する際には積極的に会談をもちます。



NHK ニュース（6月27日）

『読売新聞』 6月1日付

憲法考

「同盟関係というのは、周囲の国々からその関係が損なわれていると思われた時点で、毀損されるものだと思えます。民主党政権下で傷ついた日米同盟を議会人の立場から修復したいと思い、この1年で計6回ワシントンを訪れました」

——19日からの訪米では米政府高官と集団的自衛権について議論した。

「安倍政権の外交・安全保障政策に対する期待の高まりを強く感じました。オバマ大統領と毎日のように会談する側近中の側近であるメデイロス国家安全保障会議アジア上級部長は、『アジア太平洋地域において、日米同盟以上にグローバルな関係はない』と言ひ、集団的自衛権の行使容認に向けた憲法解釈の見直しについても、『評価し、支持する』と明言しました。

自民・河井克行前衆院外務委員長

米、早期解釈見直し期待

メデイロス氏が強く主張したのが、年末に予定する日米防衛協力の指針（ガイドライン）の改定期限を守ることでした。『ガイドライン見直しに遅延が生じれば、様々な疑念を惹起することになり、損失が大きい』と言っています。日本の政府・与党の中には、米政府はガイドラインの

改定を急いでいない、との見立てを示す人がいますが、それは間違いです。他に面会した国務省や国防総省の知日派の政府高官からも、年末をゴールに作業を進めるべきだと考えが示され、私は帰国後、安倍首相にこうした米国内の情勢を報告しました。前回のガイドライン改定は

橋本政権時代の1997年でした。朝鮮半島有事が念頭にあり、対中国のことは強く打ち出されていません。中国の海洋進出はどんどん過激さを増しており、改定は早ければ早いほどいいのです。今回のガイドライン改定は、集団的自衛権の行使容認が大前提です。東アジア地域

の安全保障環境の激変に備えるためにも、行使容認は急務です。そのための憲法解釈見直しを含めた閣議決定は、今国会中に行うべきなのです。6月には、マイケル・グリーン米戦略国際問題研究所（CSIS）上級副所長やカト・キャンベル前国務次官補らが来日します。政府や与党の関係者に会い、こうした米国の考えを直接伝えてもらいたい機会になるのではないのでしょうか」

議員交流で危機感共有

——議員の立場で日米同盟に携わる意義は。

「米国は、政府と議会が一体となって日本に対する要求など様々な発信を行っていきます。政府間だけでなく、議員同士のつながりも大事です。この1年、ワシントン訪問を重ねる中で、中国の乱暴な振る舞いが増えました。そこで、領空侵犯の恐れがある中国軍機に航空自衛隊の戦闘機が緊急発進（スクランブル）した回数をもとめ、米議会が有力者に紙を渡すことにしています。単なる情報でも、日本の立法府の人間が直接話することで、危機意識を共有してもらえることを肌で感じています」（聞き手・志磨力）



かわい・かつゆき 衆院外務委員長、法務副大臣、外務政務官、党国防部会長を歴任。2012年9月の自民党総裁選では安倍首相の推薦人に名を連ねた。衆院広島3区。当選5回。51歳。

「宇宙外交政策研究会」が始動

国家安全保障会議事務局、文部科学省、外務省、防衛省、経済産業省、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、そして宇宙に関わる幅広い業種の民間企業が集い、国際的な視点から宇宙の利活用を探る勉強会として、二月に発足したのが「宇宙外交政策研究会」です。日米防衛協力指針の17年ぶりの再改定で、宇宙空間とサイバー空間が焦点に上がっていることから、研究会の議論に米国の国務省や国防総省も関心を示しています。



毎回、官民の宇宙関係者が多数参加



ジョージ・マーシャル研究所
シェルドン博士 (2月17日)



マルケス前 NSC 宇宙政策部長
(3月18日)



ジョージ・ワシントン大学
宇宙政策研究所長ベイス教授 (5月27日)



ハリソン戦略・予算評価センタ
上級研究員 (4月23日)



ベトナム国家衛星センタ所長
トゥアン博士 (5月27日)



セキュア・ワールド財団ウィーデン
技術顧問 (6月24日)

鳩山邦夫元総務大臣を中心とする「きさらぎ会」に注目が

～会員 109人 幹事長に河井克行代議士～

「きさらぎ会」とは、所属する派閥や当選回数垣根を取り払い自由闊達に親交を深める場として、鳩山邦夫元総務大臣に近い議員たちが三年前に立ち上げた集団です。毎月の例会、隔週の役員会、そして半年に一度は菅官房長官を講師に招く総会などを実施してきました。「何があるとも、安倍総理と菅官房長官を全力で支える」(鳩山邦夫会長) 決意で、会の一層の結束と更なる発展に河井克行幹事長は力を尽くします。

邦夫氏「きさらぎ会」勢い 100人突破

19日夜には自身が育った東京・音羽の「鳩山会館」で開く「薔薇を鑑る会」で結束を確認する。鳩山氏は「安倍晋三内閣を徹頭徹尾支える」と周囲に公言しているが、党内では「新派閥結成に向けた動きではないか」との声もあがっている。



かつては鉄の結束を誇った旧田中派の流れをくむ額賀派の佐田玄一郎元行革担当相や田村憲久厚生労働相らも役員に名を連ねている。

自民党の鳩山邦夫元総務相「似顔」が主宰する派閥横断型の政策グループ「きさらぎ会」の所属議員が、同党最大派閥の町村派(93人)を上回り、106人に達したことが17日、分かった。同会は、鳩山氏と河井克行前衆院外務委員長らが平成23年6月に結成。当初は5人程度だったが、祖父が元首相、父が元外相という鳩山氏の毛並みの良さに加え、豊かな資金力で急速に拡大した。



記者手帳

鳩山ブランドなお健在
鳩山邦夫元総務相が会長を務める自民党勉強会「きさらぎ会」が8月上旬、初の研修会を開く。派閥横断で50〜60人の参加を見込む。鳩山氏は「どんなことがあっても安倍晋三首相を支える」と公言している。研修会には安倍応援団として結束を強め、存在感を示す狙いがある。きさらぎ会結成は2011年6月。当初は今村雅弘元農水副大臣、河井克行元法務副大臣ら鳩山氏に近い議員だけだった。ところが現在の会員数は衆参合わせて109人と、党内で無視できない勢力になった。2日夜の同会会合には菅義偉官房長官も顔を出し、親睦を深めた。急拡大の背景にあるのは鳩山氏の資金力だ。鳩山氏の13年分の所得は約29億円。与野党を通じてトップだっただけでなく、公開制度が始まって以降の最高額を更新した。きさらぎ会の当選1回生。「鳩山ブランド」の求心力はなお健在だ。(塚)

リニア山梨実験線に試乗

4月24日に行われた日米首脳会談で安倍晋三総理大臣はオバマ大統領に対し、超電導リニア技術の無償提供を表明しました。米国には、ワシントンDC—ニューヨーク間360キロを最高時速500キロ、1時間以内で結ぶ構想があります。首脳会談に先がけて、安倍首相はJR東海の山梨リニア実験センタを訪れ、ケネディ駐日アメリカ大使とともにリニア中央新幹線に試乗しました。総理らが乗った同じ車両に、5月30日、河井克行代議士を案内したのは、第43代ブッシュ政権で大統領特別補佐官やNSCアジア上級部長などを歴任したトーケル・パターソンJR東海顧問。わが国の最先端技術体系を米国に輸出できれば、超電導リニア技術を世界に広げる大きなきっかけになります。河井克行代議士はワシントンDCに出張する度に、日米同盟の象徴としての意義を訴えています。



時速506kmを出した瞬間。片道42.8kmの実験線を往復しました。

左隣がトーケル・パターソンJR東海顧問

法科大学院や法曹人口増大の問題に一貫して切り込む

自民、「ニュー法務族」が台頭



司法試験合格者数を年間2千人程度から、2016年までに1500人程度に減員する。自民党司法制度調査会が4月にこんな提言を発表した。合格者数を絞り、弁護士、裁判官、

世代交代、政策転換を主導

興治と元農相の太田誠一、経済財政・再生相の甘利明、元経財相の与謝野馨らベテランが中心だった。

政策転換を主導したのは「ニュー法務族」だ。司法制度改革を受けて設立された法科大学院が教育の質を確保しきれず、司法試験に合格できない卒業生が続出していった。いち早く問題点を指摘し、法曹養成の軌道修正を訴えてきたのは元法務副大臣の河井克行や、弁護士資格を持つ古川俊治ら中堅、若手議員だ。

法務省幹部はこの提言を「関係議員の世代交代を示す象徴的な出来事」とみる。河井は「かつての自民党政権が成し遂げた司法制度改革だからこそ、自民党の責任で見直すべきだ」と強調する。

法務分野の政策転換は広がりをもてる。弁護士で現在の司法制度調査会長、丸山和也は13年末に就任すると、事務局長で元検事の山下貴司らに指示。「民事・国際戦略小委員会」を立ち上げた。日本企業が海外で投資しやすい環境にする法整備支援などを立案するためだ。自民党ではこれまで本格的に扱ってこなかったテーマだ。

「法務族」は族議員といってもマイナーな存在。社会保障や公共事業など巨額の予算に結び付かない。法曹3者の政党支持は多様で、組織票もあまり期待できない。そのため党の司法制度調査会や法務部会は、法曹出身の少数議員によるサロンになりがちだった。

「国際情勢のすさまじい変化を前にすれば、役割を変えざるをえない」。弁護士で前総務副大臣の柴山昌彦は成長戦略の観点から法務分野の重要性が増している」と説く。世代交代は過去に縛られない政策展開をしやすくした。それを生かすも殺すも若手次第だ。

法務分野の政策転換は広がりをもてる。弁護士で現在の司法制度調査会長、丸山和也は13年末に就任すると、事務局長で元検事の山下貴司らに指示。「民事・国際戦略小委員会」を立ち上げた。日本企業が海外で

第17次沖縄県出張

～今年も県主催沖縄全戦没者追悼式に参列～

先の大戦で激しい地上戦が行われた沖縄県「慰霊の日」に合わせて河井克行代議士は沖縄を訪れました。昨年二月から数ええると17回目。米軍普天間飛行場の固定化を避けるには、辺野古への移設を進めなければなりません。11月県知事選挙が近づき、沖縄は熱い政治の季節を迎えました。



酒の販売を適正化する画期的な議員立法が始まります

全国で倒産・閉店が相次ぐ街の酒屋さんの窮状を救えと、全国から集まった約50万人分の署名に応えるため、「街の酒屋さんを守る国会議員の会」幹事長兼立法化プロジェクトチーム座長の河井克行代議士は、衆議院法制局、国税庁、公正取引委員会と綿密な協議を重ね、不当廉売を行った者の免許を取り消すことができるようにすることや、三年ごとの酒類販売管理研修受講の義務化などを盛り込んだ酒税法と酒税保全・酒類業組合法を改正するPT座長案を作成しました。6月19日に開かれた議連総会で河井PT座長案は満場一致で採択。今後は早急な議員立法に向けて、与野党との話し合いを進めていきます。



河井克行代議士の呼びかけで平成九年に発足した「街の酒屋さんを守る国会議員の会」は自民党衆参国議員255名が加盟する大きな議員連盟へと発展しました

国政報告会などを安佐南区で相次いで開催



「安佐南区・河井克行を育てる会」役員世話人会および「やよい会」役員会
合同会合で、長年に渡りお支えいただいている皆様と
懇親を深めました（5月30日）



戸山学区国政報告会には大勢の皆様が（5月16日）



祇園地域働き盛り世代の男性が
結成した「祇園克進（かつしん）会」
は同世代として話が弾みました（5月17日）

安の花田植え 今年も「苗持ち」

八年前に安花田植保存会（森野文恵会長）をはじめとする諸団体の努力により復活した「安の花田植え」が6月8日、安東公民館隣の水田で盛大に行われました。例年通り、河井克行代議士は苗束を早乙女に手渡す“苗持ち”役で参加。小学生・大学生が混じった早乙女さんたちや青年団からなる田楽団に加え、芸北地域・大朝地域から飾り牛が参加しました。



自由民主党広島県第三選挙区支部 衆議院議員 河井克行 事務所

国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町 2-1-2 衆議院第二議員会館 1208 号室
TEL：03-3581-5111(内線 71208) 03-3508-7518(直通) FAX：03-3508-3948

広島事務所

〒731-0153 広島市安佐南区安東 2-1-22
TEL：082-832-7301 FAX：082-878-3301

公式HP

<http://www.kawaikatsuyuki.com>

河井克行

検索